

日本で唯一の石畳堰「山田堰」

わが国に現存する唯一の大規模石堰

山田堰は、江戸時代に干ばつで苦しむ農民たちを救うため筑後川右岸の耕地を水田化するために設けられた井堰です。

筑後川の中流域に位置する朝倉市は、現在では肥沃な水田地帯ですが、かつては谷間から湧き出る小川等の水を利用したわずかな水田があるだけで、湿地や原野、凹凸や傾斜の激しい石ころまじりの砂地が広がる地域でした。1663 年、筑後川から水を引くため堀川用水が作られ 150 町余りの水田が開かれましたが、年を経るに従い取水口に土砂が堆積し干ばつ被害を受けるようになり、1722 年取水口の変更工事を皮切りに改良を繰り返し、1790 年、堀川の恩人と呼ばれる古賀百工により筑後川を斜めに堰き止める、日本で唯一の石張堰である山田堰が誕生しました。山田堰は、国の史跡に指定されている堀川用水及び朝倉揚水車とともに、現在も地域農業を支えています。

ー以上